

名家連ニュース

平成 23 年 6 月 21 日 (火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀場洋二
TEL/FAX (052) 411-2890 NO. 149 号



午前 10 時集合

6月25日(土)
全国街宣行動
栄バスターミナル
(雨天は「三越」前)



協働の輪
広がる

こころの健康推進を国の基本政策に

参加確認状況 (6月20日現在)

- ◆家族会関係：みなみ家族会 7 名、どんぐり会 3 名、昭和家族会 3 名など計 22 名
 - ◆支援関係者、団体：愛知医労連 2 名、地域生活支援センター N4 名、学識者 1 名、計 7 名
 - ◆現在、総勢 29 名です！
- 未連絡の家族会は早急に下記までご連絡下さい！
《連絡先》TEL411-2890 携帯 090 3480 1541

精神疾患 — 学校教育での普及啓発を！ 中日新聞 6 月 19 日朝刊

統合失調症を発症した母親との生活を振り返る漫画家の中村ユキさん。中村区を拠点とする県産業労働センターで



心の病もつ親の子支援を

精神障害の親と生活する子どもの支援を考えるシンポジウムが18日、中村区名駅の県産業労働センターであった。

(日下部弘太)

「偏見で病気を知らされない」

漫画家中村ユキさんら招く

日本精神保健看護学会が総会に合わせて開いた。母親が統合失調症で、「わが家の母はビョーミです」を描いた漫画家中村ユキさん、同じく母が統合失調症だった児童精神科医夏野雄志さんがパネリストを務めた。

中村さんは幻聴や妄想といった母の症状を「霊感が強いため」と信じ込み、治療につながるまでに長く苦しんだ。その経験から「小学校高学年くらいになれば病気を理解できる。早く分かれば、母をあんなに憎まずに済んだのに」と話した。

夏野さんも同調して「精神科医にも、親の病気を子どもに説明するという発想がない」と指摘した。三重大学医学部看護学科の土田幸子助教は「子どもが病気を知らされないのは偏見も影響している」と話し、学校教育で精神疾患を教える必要を強調。精神障害者が集まると噂する北海道浦河町の「へべるの家」の運営者も父を持つ向谷地吉明さんは「へべるでは、親の苦勞も子の苦勞も他人に聞かれており、子どもも自然に障害を理解できていない」と話した。

「晴ときどき虹」-天野鎮雄さん出演快諾！



《天野鎮雄さんプロフィール》

“アマチン”の愛称で親しまれ、NHK 名古屋放送劇団を振り出しに、現在、ラジオ・テレビ・舞台で活躍。若手演劇人養成のために名古屋「劇塾」を主宰し、「劇座」の代表

